

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270103981		
法人名	医療法人 社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里油木 2階 楽々		
所在地	長崎県長崎市江里町7-21		
自己評価作成日	平成26年8月27日	評価結果市町村受理日	平成26年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=4270103981-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=4270103981-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成26年9月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

GHの理念に基づき、毎日が楽しく生活できるように、買い物がお好きな方と近隣に外出したり、行事の予定を立て、ペットショップや、外食、季節感を感じて頂けるように稲佐山等に外出したり、音楽に合わせて体操する等、ご入居者が笑顔が絶えないように力を入れています。清潔保持や居室の清掃もこまめに行い、安全・快適を目指しています。  
また、週に一度、訪問診療を受けているので、その際に主治医への相談をしています。生活リハビリを積極的に行い、また、他入居者との交流を行なえるよう支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

パーソンセンタードケア(その人らしさ)の考え方を大切にしている。業務中心にならない様に、理念を援助方針へつなげている。「あなただけの一日」という外出支援を昨年からは始めている。本当に利用者がしたい事は何か？、馴染みの場所はどこのか？、利用者やご家族と話し合いを行い、外出先を決定している。この取り組みを始めた事で、画一的なサービスを提供するのではなく、その人らしさを大切に支援する事の意味について職員も考える様になった。外出先で利用者の表情を見ることで、喜びを感じたり、違った一面も見ることができ、今後の支援内容にもつなげている。医療法人が母体であり、定期的な訪問診療、看護師の訪問があり、病状が安定した状態で生活が出来る様に支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に必ず理念を唱和し、理念に沿ったサービス提供を心掛けています。理念の中にある「ご入居者は人生の大先輩である」という事を常に頭に入れ、敬う心を忘れないように努めています。	朝の申し送りの際に理念を唱和し、職員も暗記している。各ユニットごとに更に理念があり、理念の勉強会をし、援助方法などに生かして実践できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・盆踊り・敬老会・ソフトボール大会・日帰り旅行や消防訓練には積極的に参加し、お手伝いをしています。また、こちらの行事では夏祭りや敬老会、消防訓練など地域の方々にも参加して頂き、交流の場を設けるようにしています。	地域の行事や施設の行事をお互いに把握しており、必要に応じて、協力したり、参加しあったりする体制が日頃から整っている。地域の市場へ出向き、買い物をするなどコミュニケーションも良くなわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか話し合い、地域の方々のニーズに合わせた健康教室等開催し、協力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者の状況報告を行ったり、直接ご家族の想いや意見を毎回聞くことができ、よりきめ細やかなサービスの向上に努めています。	運営推進会議の際、入居者、地域、家族、行政の方が定期的に参加し、日頃から行事の確認や要望を参加者全員で情報交換の場に行っている。年2回は運営推進会議に合わせて避難訓練を行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや自治会と会議、地域活動等を通じて協力できるよう積極的に取り組んでいます。	行政の方には、アクシデントがあればその都度、報告している。日頃から地域包括支援センターの職員にも困難事例の相談をしたり、連携した体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会の中で身体拘束についても話し合い、ユニットミーティング時に職員に報告したり、みんなで話し合う機会を設け、職員全員で取り組んでいます。	法人の中に虐待防止委員会があり、日頃から研修に参加したり、参加できなかった職員にもユニットごとで申し送りをしている。職員全員が共有した知識を持ち、虐待がないケアを、積極的に取り組んでいる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会にて虐待と思われる行為について事例検討し、その結果をミーティング時に報告しています。職員全員で取り組み、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	よりよい知識を深めるため、勉強会などに参加し、要望のあるご入居者には制度を活用して頂く様にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	年に1度のペースで重要事項説明書の説明を行っており、その都度疑問や質問に対応し、理解を得て頂くよう十分な説明を行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会の際に意見・要望がないか聞くようにしているほかに、ご意見箱の設置や運営推進会議・家族懇親会で意見を頂く機会を作っています。また、ご家族にはホーム便りを送付し、意見・要望を記入できる用紙も同封しています。	施設内に意見箱の設置をしたり、運営推進会議、家族懇談会時やホーム便りを郵送する際、返信用の封筒を添えるなどし、意見・要望が言いやすい環境を整え、運営に反映させる体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング等を利用し、意見や要望を話し合いながら信頼関係を築けるようにしています。	日頃の困った状況等を管理者に報告する機会があり、設備面や制服の見直しなど、日常的な事も話しやすい環境である。管理者も職員の意見をまとめ法人に報告し、反映させていく体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の特性を見出し、向上心を持って働けるよう努めています。代表者も現場を訪れ、職員の状況把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた教育計画を作成し、外部研修の呼びかけや他部署への研修を行ない、働きながらトレーニングしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や勉強会等に積極的に参加して、良いところは学び、取り入れるようにしています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学をして頂いて説明を行ない、疑問や不安、要望などをお聞きしています。ご本人の生活歴などの情報を集め、信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前説明時に家族の想い、困られている事や不安な事に傾聴し、出来るだけご要望に沿えるよう丁寧に説明を行ない、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め、家族の意見・要望も考慮しながら支援できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し・洗濯たたみ、食器拭きや掃除機掛けなどを自然な形で無理が無いように、その日の体調を職員が確認しながら一緒に行なっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ行事の参加をお願いしたり、ホーム便りで本人の様子をお伝えしています。又、面会に来られた時はお互いに情報交換しながらより良い支援が出来るように協力関係の構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と馴染みの方との面会はもちろん、ご本人の希望があれば電話や挨拶のハガキが出せるように支援し、関係の継続に努めています。	本人の要望や今までの生活に耳を傾け、入居時に本人や家族の要望を書いてもらっている。家族の他にも、一緒に趣味活動をしていた方や、信仰している宗教の方等、気軽に訪問できる環境を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方同士の席の配置に気を配り、おやつ時間、体操、レクリエーション等ご入居者同士が気軽に集まって関わりあえるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の施設などに移られた方は、スタッフ間で情報を共有して継続的に支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人からお話を聞いたりして、これまでの生活を大切にケアプランの検討を行なっています。	入居者本位を大切に、何をしたいのか、どこに行きたいか、誰に会いたいのか、これまでの生活歴について、ご家族や本人へ尋ね、入居者が楽しく安らぎのある生活が出来る様に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人からの聞き取りや担当ケアマネージャー等から話を聞くなどして、これまでのサービス利用や生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、情報を共有する事はもちろん、ミーティングでも一人一人の状態について話し合い、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は家族の意見を伺い出来るだけ意向に添うように作成しています。又、ミーティング時や日頃の業務の中でも検討を行なっています。	毎月開催されるユニット会議の中で事例検討を行なっている。介護計画作成時は、ご家族へ連絡を入れており、希望や要望などについて尋ねている。日頃より入居者の状況を見て、課題がある場合はその都度話し合いを行ない検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った支援が出来ているか、チェック表を作成し、毎日記入しています。統一出来るようにスタッフ申し送りノートで情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やその時の要望に応じて、受診や退院時の送迎を行なうなど柔軟な対応を行なっています。提携以外の医療機関受診の場合も移送サービスを行なう場合もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方々にご協力頂けるよう働きかけています。消防署をはじめ、警備会社や地域の方々と連携を図り、安全な生活を送れるように支援しています。また、地域のイベント等に職員が参加する事で交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外は、原則ご家族対応にて受診して頂いています。受診前後には情報交換を行ない、必要に応じて医師との連絡を取り合い、信頼関係を築いています。	入居時に主治医について確認している。ほとんどの入居者は24時間連携が図れ安心した生活が送れる様に同法人の医師へ変更される。1週間の状態について、主治医へ随時連絡し、週1回は訪問診療もある。他科受診は原則としてご家族対応で行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制にて主治医・看護師と連絡を取り合い、対応する体制が出来ています。普段より、緊急時にも対応出来るよう細やかな情報交換を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時には医療機関への情報提供を行ない、主治医への相談やご家族の連絡を取る事により安心できる早期退院への取り組みを行なっています。また退院時にはグループホームでの受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えたご入居者のご家族や医師と連携、相談をしてマニュアルを作成しています。希望に沿った支援が出来るように定期的にチームで話し合い、見直しを行なっています。	本人、家族へは入居時に看取りに関する指針について説明し同意を得ている。終末期を迎えた時、医師から方針について説明があり、入居者、ご家族の希望に沿える様に支援している。看取り介護計画書を作成し、医療介護が連携し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外における研修に各職員が参加する事や緊急時マニュアルを把握しておく事で、緊急時にも冷静な対応ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練や毎月のユニットミーティング、勉強会を通じ、初期消火・避難道具・非常時の連絡、通報、誘導など全職員が参加し、身につけるよう努めています。また、訓練時には地域の方やご家族の参加も呼びかけ、協力を得ています。	年2回は運営推進会議の時、入居者、自治会、地域住民、ご家族、全職員、消防署の協力を得て行なっている。月1回は、初期消火、通報、避難誘導についての訓練を行なっている。各居室前に二重検索防止、入居者別に避難方法の色分け等の工夫がされてある。	災害に備えた非常用の食料、備品等について、準備はされているが、定期的な点検不足、備品の内容について全職員が把握できていない。非常事態に速やかに対応が出来る様に、今後の取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者一人一人の人格を尊重する為、職員が自分振り返りの勉強会に参加したり、丁寧な言葉遣いを徹底しています。又、申し送りなど、ご入居者に関わることはご入居者の居ない場所で行なっています。	日頃より馴れ合いにならない様に、言葉遣いには注意している。接遇についての勉強会を開催し、入居者やご家族へ不快な思いをさせない様に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の状態に応じた声掛けや対応を心掛け、意志表出が困難な方に対しては、日ごろの観察を徹底して、表情や仕草を読み取るよう、心掛け、自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に閉じこもってしまうばかりにならないように生活リズムが乱れない程度に声掛けし、なるべく他の方との交流が図れるようにしています。その時の気分や体調を考慮して、本人の自己決定を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は帽子や上着をご本人と一緒に選び、またパジャマや洋服をスタッフと選び、日夜のリズムを大切にしています。また、月に1回の美容サービスも希望に応じて受けられるようになっていきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日にお好きな物を取り入れるようにし、食事を楽しんで頂けるように取り組んでいます。	食事の時は、座位保持が可能な方は車椅子から椅子へ座り直し、衣服を汚さないために使用するエプロンは極力使わない様にしている。自助具や、状態に応じて食事の形態を変更し、自力摂取が出来る様に配慮している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量から調理方法や形態を日々考え、少しでも安全に美味しく召し上がって頂けるよう工夫しています。水分補給はトロミをつけたり、代替品(アイスクリーム、ゼリー・ポカリ等)を使用し、ご本人が好んで摂取できるようにして提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアをして頂いています。ご自分で口腔ケアが困難な場合は職員が支援しています。又、提携している歯科受診や口腔ケアサービスも使用しています。義歯の方は定期的に入れ歯の洗浄を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を有効活用し、個々の排泄間隔の把握に努めています。失敗してしまった方も周囲の方に気付かれないように配慮しています。ご入居者からのサインも見逃さないよう観察し、職員間でも情報共有に努めています。	排泄チェック表で排泄間隔を確認し、声かけ誘導を行なっている。今までにオムツから布パンツへ変更できた事例もあり「布パンツへ戻しましょう」を目標に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況の確認を行ない、便秘薬の調整を行なっています。又、水分補給、食事、運動など、工夫を行ない便秘の予防が努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェックシートを付けて、ご入居者の要望に合わせた入浴をして頂いています。一人一人の入浴の好みを把握し、楽しめる様に支援しています。希望時には可能な限り応じるようにしています。	原則週2回は入浴できる様に支援している。入浴方法や入浴時間については、ご入居者の希望に沿う様に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人が自由に休める様な形を取っています。疲労感が見られる時やその方の生活習慣に応じて休んで頂けるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について理解出来るように、薬情報書をいつまで見れるようにファイルに綴じて、申し送りを行ない、職員間で周知できるように努めています。又、症状の変化があればすぐに主治医、かかりつけ医に相談を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事などはして頂き、食器拭き・洗濯干し・掃除などの作業提供を行なっています。他階に行き、話しの合う方とコミュニケーションが取れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛けたり、駐車場に出てみんなで日光浴をしています。又、ご家族に依頼してお墓参りや自宅へお連れして頂いています。	昨年から「あなただけの一日」という、個別の外出支援を行なっている。入居者、ご家族より馴染みの場所を聞いて外出している。釣りが好きだった入居者と釣りへ行く、好きな食べ物を食べに行く等、一日を入居者のために使い、楽しみある外出支援に取り組んでいる。	家族からの要望で少しの時間でもいいので外出をして欲しいと意見がある。外出支援に積極的なユニット、消極的なユニットがある。入居者、ご家族の要望に沿える様な取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金、財布を所持している方も居られます。散歩や外出時に持参しお金を使う機会もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が好きで、かけたい時に掛けられるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、お花を飾ったりご入居者と共同して作成した工作物を飾ったりして環境づくりを行なっています。	共用空間は自然の光が入り、明るい雰囲気である。炊事場もあり、料理の音やにおいが感じられる。居心地よく過ごせる様に、光、室温調整がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご入居者同士、隣に座って会話が出来るようにしています。テレビを見たり、新聞を読んだり、広告折りをしたりと好きな事をして過ごせるように心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に依頼して写真を持って来て頂いたり、使い慣れた物や仏壇などをもって来て頂き、ご本人が安心して生活できる空間を作れるように工夫しています。	各居室は、写真や使い慣れた家具、置き物など、馴染みのある品物が置かれている。本人、ご家族と相談し、安心した生活空間が出来る様に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂場など分かりやすいように表示し、間違わないようにしています。フロア内も環境整備を行ない、事故につながらないように気を付けています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270103981		
法人名	医療法人 社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里油木 3階 喜々		
所在地	長崎県長崎市江里町7-21		
自己評価作成日	平成26年8月27日	評価結果確定日	平成26年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosovoCd=4270103981-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosovoCd=4270103981-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成26年9月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

GHの理念に基づき、毎日が楽しく生活できるように、買い物がお好きな方と近隣に外出したり、行事の予定を立て、ペットショップや、外食、季節感を感じて頂けるように稲佐山等に外出したり、音楽に合わせて体操する等、ご入居者が笑顔が絶えないように力を入れています。清潔保持や居室の清掃もこまめに行い、安全・快適を目指しています。また、週に一度、訪問診療を受けているので、その際に主治医への相談をしています。生活リハビリを積極的に行い、また、他入居者との交流を行なえるよう支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に必ず理念を唱和し、理念に沿ったサービス提供を心掛けています。理念の中にある「ご入居者は人生の大先輩である」という事を常に頭に入れ、敬う心を忘れないように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・盆踊り・敬老会・ソフトボール大会・日帰り旅行や消防訓練には積極的に参加し、お手伝いをしています。また、こちらの行事では夏祭りや敬老会、消防訓練など地域の方々にも参加して頂き、交流の場を設けるようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか話し合い、地域の方々のニーズに合わせた健康教室等開催し、協力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者の状況報告を行ったり、直接ご家族の想いや意見を毎回聞くことができ、よりきめ細やかなサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや自治会と会議、地域活動等を通じて協力できるよう積極的に取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会の中で身体拘束についても話し合い、ユニットミーティング時に職員に報告したり、みんなで話し合う機会を設け、職員全員で取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会にて虐待と思われる行為について事例検討し、その結果をミーティング時に報告しています。職員全員で取り組み、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	よりよい知識を深めるため、勉強会などに参加し、要望のあるご入居者には制度を活用して頂く様にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	年に1度のペースで重要事項説明書の説明を行っており、その都度疑問や質問に対応し、理解を得て頂くよう十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会の際に意見・要望がないか聞くようにしているほかに、ご意見箱の設置や運営推進会議・家族懇親会で意見を頂く機会を作っています。また、ご家族にはホーム便りを送付し、意見・要望を記入できる用紙も同封しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング等を利用し、意見や要望を話し合いながら信頼関係を築けるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の特性を見出し、向上心を持って働けるよう努めています。代表者も現場を訪れ、職員の状況把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた教育計画を作成し、外部研修の呼びかけや他部署への研修を行ない、働きながらトレーニングしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や勉強会等に積極的に参加して、良いところは学び、取り入れるようにしています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学をして頂いて説明を行ない、疑問や不安、要望などをお聞きしています。ご本人の生活歴などの情報を集め、信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前説明時に家族の思い、困られている事や不安な事に傾聴し、出来るだけご要望に沿えるよう丁寧に説明を行ない、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め、家族の意見・要望も考慮しながら支援できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し・洗濯たたみ、食器拭きや掃除機掛けなどを自然な形で無理が無いように、その日の体調を職員が確認しながら一緒に行なっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ行事の参加をお願いしたり、ホーム便りで本人の様子をお伝えしています。又、面会に来られた時はお互いに情報交換しながらより良い支援が出来るように協力関係の構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と馴染みの方との面会はもちろん、ご本人の希望があれば電話や挨拶のハガキが出せるように支援し、関係の継続に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方同士の席の配置に気を配り、おやつ時間、体操、レクリエーション等ご入居者同士が気軽に集まって関わりあえるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の施設などに移られた方は、スタッフ間で情報を共有して継続的に支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人からお話を聞いたりして、これまでの生活を大切にケアプランの検討を行なっています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人からの聞き取りや担当ケアマネージャー等から話を聞くなどして、これまでのサービス利用や生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、情報を共有する事はもちろん、ミーティングでも一人一人の状態について話し合い、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は家族の意見を伺い出来るだけ意向に添うように作成しています。又、ミーティング時や日頃の業務の中でも検討を行なっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った支援が出来ているか、チェック表を作成し、毎日記入しています。統一出来るようにスタッフ申し送りノートで情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やその時の要望に応じて、受診や退院時の送迎を行なうなど柔軟な対応を行なっています。提携以外の医療機関受診の場合も移送サービスを行なう場合もあります。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方々にご協力頂けるよう働きかけています。消防署をはじめ、警備会社や地域の方々と連携を図り、安全な生活を送れるように支援しています。また、地域のイベント等に職員が参加する事で交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外は、原則ご家族対応にて受診して頂いています。受診前後には情報交換を行ない、必要に応じて医師との連絡を取り合い、信頼関係を築いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制にて主治医・看護師と連絡を取り合い、対応する体制が出来ています。普段より、緊急時にも対応出来るよう細やかな情報交換を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時には医療機関への情報提供を行ない、主治医への相談やご家族の連絡を取る事により安心できる早期退院への取り組みを行なっています。また退院時にはグループホームでの受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えたご入居者のご家族や医師と連携、相談をしてマニュアルを作成しています。希望に沿った支援が出来るように定期的にチームで話し合い、見直しを行なっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外における研修に各職員が参加する事や緊急時マニュアルを把握しておく事で、緊急時にも冷静な対応ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練や毎月のユニットミーティング、勉強会を通じ、初期消火・避難道具・非常時の連絡、通報、誘導など全職員が参加し、身につけるよう努めています。また、訓練時には地域の方やご家族の参加も呼びかけ、協力を得ています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者一人一人の人格を尊重する為、職員が自分振り返りの勉強会に参加したり、丁寧な言葉遣いを徹底しています。又、申し送りなど、ご入居者に関わることはご入居者の居ない場所で行なっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の状態に応じた声掛けや対応を心掛け、意志表出が困難な方に対しては、日ごろの観察を徹底して、表情や仕草を読み取るよう、心掛け、自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に閉じこもってしまうばかりにならないように生活リズムが乱れない程度に声掛けし、なるべく他の方との交流が図れるようにしています。その時の気分や体調を考慮して、本人の自己決定を尊重しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は帽子や上着をご本人と一緒に選び、またパジャマや洋服をスタッフと選び、日夜のリズムを大切にしています。また、月に1回の美容サービスも希望に応じて受けられるようになっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日にお好きな物を取り入れるようにし、食事を楽しんで頂けるように取り組んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量から調理方法や形態を日々考え、少しでも安全に美味しく召し上がって頂けるよう工夫しています。水分補給はトロミをつけたり、代替品(アイスクリーム、ゼリー・ポカリ等)を使用し、ご本人が好んで摂取できるようにして提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアをして頂いています。ご自分で口腔ケアが困難な場合は職員が支援しています。又、提携している歯科受診や口腔ケアサービスも使用しています。義歯の方は定期的に入れ歯の洗浄を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を有効活用し、個々の排泄間隔の把握に努めています。失敗してしまっても周囲の方に気付かれぬように配慮しています。ご入居者からのサインも見逃さないよう観察し、職員間でも情報共有に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況の確認を行ない、便秘薬の調整を行なっています。又、水分補給、食事、運動など、工夫を行ない便秘の予防が努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェックシートを付けて、ご入居者の要望に合わせた入浴をして頂いています。一人一人の入浴の好みを把握し、楽しめる様に支援しています。希望時には可能な限り応じるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人が自由に休める様な形を取っています。疲労感が見られる時やその方の生活習慣に応じて休んで頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について理解出来るように、薬情報書をいつまで見れるようにファイルに綴じて、申し送りを行ない、職員間で周知できるように努めています。又、症状の変化があればすぐに主治医、かかりつけ医に相談を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事などはして頂き、食器拭き・洗濯干し・掃除などの作業提供を行なっています。他階に行き、話しの合う方とコミュニケーションが取れるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛けたり、駐車場に出てみんなで日光浴をしています。又、ご家族に依頼してお墓参りや自宅へお連れして頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金、財布を所持している方も居られます。散歩や外出時に持参しお金を使う機会もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が好きで、かけたい時に掛けられるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、お花を飾ったりご入居者と共同して作成した工作物を飾ったりして環境づくりを行なっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご入居者同士、隣に座って会話が出来るようにしています。テレビを見たり、新聞を読んだり、広告折りをしたりと好きな事をして過ごせるように心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に依頼して写真を持って来て頂いたり、使い慣れた物や仏壇などをもって来て頂き、ご本人が安心して生活できる空間を作れるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂場など分かりやすいように表示し、間違わないようにしています。フロア内も環境整備を行ない、事故につながらないように気を付けています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103981		
法人名	医療法人 社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里油木 4階 悠々		
所在地	長崎県長崎市江里町7-21		
自己評価作成日	平成26年8月27日	評価結果市町村受理日	平成26年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosovoCd=4270103981-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosovoCd=4270103981-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成26年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHの理念に基づき、毎日が楽しく生活できるように、買い物がお好きな方と近隣に外出したり、天気の良い日は公園にお弁当を持っていき昼食を取ったりし、ご入居者も笑顔が絶えないように力を入れています。週に一度の訪問診療を受けているのでその際に主治医へ相談をしています。その方の出来る事を見極め、日常生活の中でリハビリを行ない残存機能を活かしイキイキとした生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に必ず理念を唱和し、理念に沿ったサービス提供を心掛けています。理念の中にある「ご入居者は人生の大先輩である」という事を常に頭に入れ、敬う心を忘れないように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・盆踊り・敬老会・ソフトボール大会・日帰り旅行や消防訓練には積極的に参加し、お手伝いをしています。また、こちらの行事では夏祭りや敬老会、消防訓練など地域の方々にも参加して頂き、交流の場を設けるようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか話し合い、地域の方々のニーズに合わせた健康教室等開催し、協力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者の状況報告を行ったり、直接ご家族の想いや意見を毎回聞くことができ、よりきめ細やかなサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや自治会と会議、地域活動等を通じて協力できるよう積極的に取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会の中で身体拘束についても話し合い、ユニットミーティング時に職員に報告したり、みんなで話し合う機会を設け、職員全員で取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会にて虐待と思われる行為について事例検討し、その結果をミーティング時に報告しています。職員全員で取り組み、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	よりよい知識を深めるため、勉強会などに参加し、要望のあるご入居者には制度を活用して頂く様にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	年に1度のペースで重要事項説明書の説明を行っており、その都度疑問や質問に対応し、理解を得て頂くよう十分な説明を行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会の際に意見・要望がないか聞くようにしているほかに、ご意見箱の設置や運営推進会議・家族懇親会で意見を頂く機会を作っています。また、ご家族にはホーム便りを送付し、意見・要望を記入できる用紙も同封しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング等を利用し、意見や要望を話し合いながら信頼関係を築けるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の特性を見出し、向上心を持って働けるよう努めています。代表者も現場を訪れ、職員の状況把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた教育計画を作成し、外部研修の呼びかけや他部署への研修を行ない、働きながらトレーニングしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や勉強会等に積極的に参加して、良いところは学び、取り入れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学をして頂いて説明を行ない、疑問や不安、要望などをお聞きしています。ご本人に関する情報やサマリーなどを集め、信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前説明時に家族が困られている事や不安な事を確認し、出来るだけご要望に沿えるよう丁寧に説明しながら関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め、家族の意見・要望も取り入れ安心してやすらいだ生活が送れるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者の思いや生き方を尊重し人生を学ばせていただくつもりで接し関係性を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族との絆を大切にするため行事などに一緒に参加していただき共に楽しんでいただけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の言動や生活歴およびご家族からの情報提供によりご入居者本位の生活が支援できるように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションなどを通じてご入居者同士の会話の橋渡しをすることでご入居者同士の関係性を深めていけるように支援していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の病院や施設へ移られた方に対してはお見舞いや面会に行くなどして、スタッフ間で情報交換を行うことで、継続的なお付き合いを心掛けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者の思いや悩み不安などを聞いたり、日常生活のコミュニケーションの中から、ご入居者の暮らしの希望、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方から話を聞いたり、ご本人の日常生活での会話により今までの暮らし方、生活での出来事、経験した事などを知ることが出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いた事、目に付いた事は記録に残し、その人の一日の過ごし方や出来る事を把握して、その人らしい生活が出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングを開き、入居者の状況や状態について、話し合いケアプランに反映させています。またご本人やご家族の意向や要望に沿えるように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人を個別に観察し、その日の状態や状況、日常生活の様子を記録しています。また、ケアの工夫や気づきなどの情報をスタッフ申し送りノートで共有し、より良いケアが出来るように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況等その時の要望に応じて通院・送迎を行ない、医療連携体制機能を活かした迅速な対応を行っています。また他の病院受診の際も移送サービスを行ない、定期的に受診していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方々にご協力頂けるよう働きかけています。消防署をはじめ、警備会社や地域の方々と連携を図り、安全な生活を送れるように支援しています。また、地域のイベント等に職員が参加する事で交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外は、原則ご家族対応にて受診して頂いています。受診前後には情報交換を行ない、必要に応じて医師との連絡を取り合い、信頼関係を築いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制にて主治医・看護師と連絡を取り合い、対応する体制が出来ています。普段より、緊急時にも対応出来るよう細やかな情報交換を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時には医療機関への情報提供を行ない、主治医への相談やご家族の連絡を取る事により安心できる早期退院への取り組みを行なっています。また退院時にはグループホームでの受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えたご入居者のご家族や医師と連携、相談をしてマニュアルを作成しています。希望に沿った支援が出来るように定期的にチームで話し合い、見直しを行なっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外における研修に各職員が参加する事や緊急時マニュアルを把握しておく事で、緊急時にも冷静な対応ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練や毎月のユニットミーティング、勉強会を通じ、初期消火・避難道具・非常時の連絡、通報、誘導など全職員が参加し、身につけるよう努めています。また、訓練時には地域の方やご家族の参加も呼びかけ、協力を得ています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にある「ご入居者は人生の大先輩」を心に、言葉づかいに注意し、誇り・プライバシーにかかる場合には他入居者がいない時や聞こえない場所で話すよう配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	非言語的コミュニケーションを重視し、意思表示が困難なご入居者の表情や仕草を読み取るよう心掛け自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に閉じこもりがちな入居者には、ご負担にならない程度に共用スペースにお誘いしたりし、他の方と交流出来るようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の理容サービスや毎朝の整容や、ご入居者の好みに合った衣類を身に着けていただけるよう、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の感想や好みをお聞きし、希望に沿えるように献立を工夫しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食後に食事摂取量・水分量を記録し、水分などが不足している場合には随時声掛けを行ない、提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアだけでなく、提携歯科医院の訪問診療や口腔ケアサービスを利用しています。また、口腔ケアは本人に出来る範囲で行なっただき、その後に職員による確認、仕上げを行なっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を有効活用し、適時トイレ誘導を行なっています。また、必要に応じポータブルトイレを使用し、安全でご負担が少ないように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況の確認を行ない、トイレの声掛けを行なっています。また、必要に応じ便秘薬で調整を行ない、主治医や看護師と連絡を取り、便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	チェックシートを作成し、ご入居者の要望に合わせて入浴し、清潔保持のための声掛けを行ない、ご入居者に無理やご負担がないように入浴していただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んでいただけるように、ご入居者の生活習慣・体調・気持ちを把握するとともに、環境整備に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者の既往歴を把握し、処方薬について職員間で周知できるように申し送りを行なっています。また、服薬時には必ず職員2名で確認をしています。すぐに確認ができるように薬情報書もファイルに綴じています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をご本人またはご家族より聞き取り、その人の趣味や、得意なことで楽しんでいただけるように、楽しめる場を提供し、気分転換を図っていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日は、お散歩や買い物など声掛けを行ない、出掛けるように心掛けています。また、季節を感じていただく為に、初詣や花見などにも出掛けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自分でお金や財布を所持しているご入居者はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望があれば電話を掛けたり手紙を出したりする支援の体制は整っていますが、現在はご入居者からの要望はありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明などやわらかくし、室温も適温になるように空調を心掛けています。また、共用スペースには季節に応じ装飾等をし、季節を感じていただけるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いご入居者と会話出来るようにテーブルでの席の位置を配慮しています。また独りの時間を楽しむ為の個室があり、思い思いに過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものやご本人が使い慣れたもの等をご家族と相談し、自宅から持ってきていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	無理なく安全に生活できるように、必要に応じナースコールを鳴らしていただきADLに応じた介助を行なっています。		